

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名		看護学概論			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	4月～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	看護の概念を理解し、実践科学としての看護学および看護の機能や看護者の役割について理解する。				
学習目標	1. 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。 2. 看護の対象を理解し、看護における基本的な考え方を身につける。 3. 保健・医療・福祉における看護職の専門性と役割について学ぶ。 4. 仲間とのディスカッションを通して気づきを深め、看護者に必要な資質を理解し身につけることができる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法・テキスト
	1	看護学概論授業ガイダンス Ⅰ 看護とは 今、私たちが考えている「看護」とは学問としての「看護」			講義 PP
	2	A 看護の本質 1. 看護とは何か 2. 看護職の成立と発展 1)看護の歴史 2)職業としての看護			講義 PP
	3	B 看護の役割と機能 1. 看護実践の方法と看護ケア 2. 看護実践の質保障するために必要な要件 3. 看護の役割・機能の拡大			講義 PP
	4	C 看護の定義 1)保健師助産師看護師法における定義 2)看護職の団体による看護の定義 3)看護の理論家にみる看護の定義			講義 PP
	5	D 看護の継続性と情報共有 1. 看護における情報伝達と共有 2. 多職種チームの連携と継続的なかわり 3. 在宅療養を支える連携と継続的なかわり 4. 勤労者看護(治療就労両立支援)			講義 PP
	6	Ⅱ 看護の対象の理解 A 人間の「こころ」と「からだ」 1. 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理 2. ストレスの影響と患者心理			講義 PP
	7	B 生涯発達しつづける存在としての人間の理解 C 人間の「暮らし」の理解 1. 生活者としての人間:「生活」の3つの側面 2. 看護の対象としての家族・集団・地域			講義 PP
	8	Ⅲ 健康と病気 A 健康のとらえ方 1. 健康とはなにか 2. 社会の変遷と健康観の変化 3. 障害とは何か 4. 健康の増進と病気の予防			講義 PP
	9	B. 国民の健康状態 1)国民の健康の全体像 2)国民のライフサイクルと健康・生活 3)現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード			協同学習
	10	Ⅳ 看護の提供者 1. 看護職の資格と養成に関わる制度			講義 PP 11回目の事前

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

		2. 看護職者の就業状況と継続教育	課題
授業計画	11	VI 看護における倫理 1. 職業倫理としての看護倫理 2. 患者の権利とインフォームドコンセント 3. 現代医療における倫理的問題 4. 医療専門職の倫理規定 5. 看護の本質としての看護倫理 6. 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 7. 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義 PP ④よくわかる 看護者の倫理綱領
	12	9. 看護者の倫理綱領について協同学習 10. 事例による倫理的検討	協同学習
	13	V ヘンダーソン看護論	協同学習
	14	実習場면을振り返り、基本的看護の構成要素について理解する	
	15	筆記試験	
使用教材	①系統看護学講座 専門①看護学概論 基礎看護学〔1〕, 医学書院 ②新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論, メヂカルフレンド ③よくわかる看護者の倫理綱領, 照林社		
参考文献	・ナースンググラフィカ⑩基礎看護学 看護学概論, メディカ出版 他講義中に紹介		
成績評価の方法	筆記試験90% 授業態度(グループワーク参加姿勢・課題学習の取り組み)10%		

科目名		看護過程			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	9月 ～ 3月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	対象の特殊性・個別性に合わせた看護を実践するために看護過程のプロセスを理解する。				
学習目標	1. 看護過程の概念と、看護過程を活用する意義を理解できる。 2. 看護過程の段階とそれぞれの構成要素について理解できる。 3. ヘンダーソンが考える看護(看護の概念と概念枠組み)と、考えに基づく看護過程を理解できる。 4. 看護過程における記録・報告の意味が理解できる。 5. ペーパーペイシエントの事例をもとに看護計画を立案することができる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	I. 看護過程とは 1. 看護過程とはなにか 2. なぜ学ぶのか 3. 看護とは 4. 看護過程の考え方 5. 看護過程の構成要素			講義
	2	II. 看護過程の基盤となる考え方 1. 人間関係過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション			講義
	3	III. 情報の収集と分析 1. 情報収集とは 2. 情報収集の方法 3. 情報の分析			講義 DVD
	4	IV. ヘンダーソンの考えに基づく看護過程 1. 看護理論とは 2. ヘンダーソンの看護論			講義
	5	V. 看護過程のプロセス 1. アセスメント 1) アセスメントとは何か 2) 情報とは何か 3) 情報の種類(S・Oデータ) 4) 情報収集の枠組みと整理 2. 看護過程の展開(実習の進め方) 1) 事前学習必要性 2) 情報収集について 3) 1号用紙・2号用紙の意味と記載方法			講義 演習 グループワーク
	6	4) 3号用紙の意味と記載方法			
	7	2. 全体像の描写 1) 全体像とは何か 2) 全体像を把握する必要性 3) 全体像の描写の仕方 3. 望ましい姿の設定 4. 看護問題の明確化 1) 看護上の問題とは何か 2) 看護上の問題の種類 3) 看護診断・共同問題・医学診断 4) 看護問題の表現方法と計画との関連			講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
授業計画	8	4. 看護計画の立案 1)期待される結果の設定 2)看護計画の立案方法	講義
	9	5. 実施 1)看護過程における実施の意義 2)実施のプロセス 6. 評価 1)看護過程における評価の意義・目的 2)評価の内容・種類・方法	講義
	10	V. 記録・報告 1. 患者記録の目的と種類 2. 看護記録 3. フローチャート 4. クリティカルパス 5. 報告	
	10 ～ 13	看護過程演習 ＜演習のねらい＞ ヘンダーソンの考え方に基づく看護過程について、協同学習を通して考え 方様々な視点を学び、共有することで、理解を深める。	個人作業 協同学習
	14	演習方法・内容に関しては別紙資料参照のこと	全体会
	15	V. 記録・報告(続き) 6. 記録の実際(注意することなど) 7. 経過記録について	講義
		試験	
使用教材		1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学①看護学概論 医学書院 3. 秋葉公子他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェルヒロカワ 4. V. ヘンダーソン著 湯楨ます訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版 5. 高木永子監修 看護過程に沿った対象看護 学研	
参考文献		1. ロザリンド・アルファロール・フィーヴァー 基礎から学ぶ看護過程と看護診断 医学書院 2. 黒田裕子 監修 改訂版 やさしく学ぶ看護理論 日総研 他講義中に紹介	
成績評価の方法		前講義終了後の筆記試験(85点)と講義期間中の課題提出状況(15点)によって評価する。	

科目名		健康状態の経過に基づく看護			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	2年次	履修時期	5月 ～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	認定看護師 専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	健康状態の経過に応じた看護の展開方法を理解する。				
学習目標	1. 慢性期・回復期・リハビリテーション期にある対象のニーズと看護援助を理解する。 2. 急性期看護の特徴と対応・危機管理について知識を得る。 3. 周手術期における生体侵襲、患者及び家族の心理とその看護について理解する。 4. 終末期にある対象のニーズと看護援助を理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元:慢性期の看護 担当:専任教員 科目ガイダンス I. 健康状態の経過に基づく看護 1. 健康とは 2. 健康状態の理解と看護 3. 健康の維持・増進を目指す看護の特徴 4. 健康の維持・増進を目指す人々のニーズ 4. 健康の維持・増進を目指す人々への看護援助			講義
	2	II. 慢性期の看護 1. 慢性期の特徴			講義
	3	2. 慢性期の患者のニーズ			
	4	3. 慢性期にある患者への看護援助			講義
	5	III. 回復期・リハビリテーション期の看護 1. 回復期にある患者の看護 2. リハビリテーション期の特徴と患者のニーズ 3. リハビリテーション期にある患者への看護援助			
	6	単元:急性期の看護 担当:手術看護認定看護師 1. 急性期の特徴・生体反応 2. 急性期における患者・家族の看護 3. 周手術期看護・チーム医療について			講義、演習
	7	4. 手術室看護と看護師の役割 5. 術前～術中～術後の看護 6. 術中の安全管理、手術体位			
	8	7. 術後の看護について 8. 術後合併症予防と早期回復に向けた看護			講義・演習
	9	9. 創傷治癒過程、術後疼痛管理、ドレーン管理			講義・演習
	10	10.事例を用いた講義（状態の変化に応じた援助）			講義・演習
	11	11.一次救命処置と看護(3名以上で協力して行う)			講義・演習
	12	単元:終末期の看護 担当:緩和ケア認定看護師 1. 終末期とは 2. 日本における死をとりまく状況と課題 3. チームアプローチの必要性 4. 悪い知らせを伝える			講義
	13	5. 終末期における倫理的課題(インフォームドコンセント・ACP) 6. 事例紹介			
	14	7. 臨死期とは 8. 臨死期における患者と家族のニーズ 9. 臨死期における看護師の役割 10. 予期悲嘆・悲嘆・遺族ケア 11. エンゼルケア 12. 事例			講義
15	試験				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

使用教材	全単元共通 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 単元:慢性期の看護 1. 新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社 単元:急性期の看護 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2. 周手術期看護 インターメディカ 単元:終末期の看護 1. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
参考文献	1. 野川道子 看護実践に活かす中範囲理論 メヂカルフレンド社 2. 黒田裕子 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 3. 中西睦子 成人看護学-慢性期 建帛社 4. 新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護学総論 メヂカルフレンド社 5. 周手術期管理リームテキスト 第2版 日本麻酔科学会 6. 手術室看護 術前術後をつなげる術中看護 医歯薬出版株式会社 7. 周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院 8. ポジショニング学 中山出版 9. オペナーシング 第28巻4号・第30巻4号 メディカ出版 10. ナースのためのドレーン管理マニュアル 照林社 11. 臨床看護学叢書2 経過別看護 第2版 メヂカルフレンド社
成績評価の方法	筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%

科目名		がん看護			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	2年次	履修時期	4月～9月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専門看護師、 認定看護師、専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	がんの病態、治療、身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に学び、がん患者への全人的な看護を理解する。				
学習目標	1. がん医療やがんの病態について学び、がん治療における看護の重要性を理解する。 2. がん患者の全人的苦痛を緩和するための援助を理解する。 3. がん患者の就労支援の実感がわかる。 2. 放射線療法と化学療法を理解し、治療効果を高め合併症を予防する看護について理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元：がん看護 担当：がん看護専門看護師 I. がん医療の現在 1. がんを取り巻く状況 2. がんの疫学 II. がんの病態と臨床経過 1. がんの病態 2. がん患者の臨床経過			講義 ペアワーク グループワーク
	2	III. がん治療における看護の重要性 IV. がん治療の場と看護 1. 外来がん看護 2. がん患者の療養支援			がん看護学 P202～214 ※「労働と健康」の専任教員担当分が終了次第講義.
	3	V. がん患者の就労支援の実際			
	4	単元：緩和ケア 担当：緩和ケア認定看護師 VI. がん患者の看護			講義
	5	1. がん患者の苦痛に対するマネジメント			ペアワーク
	6	2. がん患者の心理的サポート			グループワーク
	7				
	8	単元：放射線療法と看護 担当：放射線療法認定看護師 VII. 放射線療法と看護			講義
	9	1. 治療の理解			ペアワーク
	10	2. 放射線療法における看護			グループワーク
	11	単元：薬物療法と看護 担当：がん化学療法認定看護師と看護 VIII. 薬物療法と看護			講義
	12	1. 薬物療法の理解			ペアワーク
	13	2. 薬物療法における看護			グループワーク
	14				
15	試験				
使用教材	1. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院				
参考文献	講義中に紹介				
成績評価の方法	筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%				

科目名		共通基本技術(序論、コミュニケーションの基本)				
教育内容		専門分野 基礎看護学		1年次	履修時期	4月～8月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間	
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり			
科目目的	対象にあった看護を実践するために、看護技術の特徴と観察について学び、コミュニケーション技術に必要な知識・技術・態度を修得する。					
学習目標	内容Ⅰ(単元 看護技術序論) 1. 看護技術を適切に実践するための要素を理解する。 2. 観察の意義と方法を学ぶ。 内容Ⅱ(単元 コミュニケーション) 1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、関係構築のための基本と効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。 2. よりよい看護実践に向けた効果的なカンファレンスの方法を理解でき					
授業計画	回					授業方法
	1	単元:看護技術序論 担当:専任教員 1. 技術とは何か 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術の範囲 4. 当校における基礎看護技術教育 1)基礎看護技術の修得過程 2)演習・実技試験について 3)実習室の使用について 4)看護技術マトリックス				講義 講義
	2	5. 看護技術を適切に実践するための要素 1)看護技術の目的を把握する 2)正確な方法を熟知する 3)看護技術の根拠を考える 4)患者への適応意義と個別性を考慮する 5)インフォームドコンセント 6)安全・安楽を確保する 7)プライバシーを保護する 8)患者の状態や反応を確認しながら実施する				講義
	4	6. 個人情報の保護 7. 観察の意義と方法 1)看護における観察の意義、方法 2)対象者の全体を把握する				講義
	5	3)生活援助における観察 4)予測性をもった観察 8. 報告・連絡・相談				講義
	6	単元:コミュニケーション 担当:専任教員 ※講義のガイダンス 1. コミュニケーションの基本 1)行動で磨くコミュニケーション 2)聴く・話す・受けとめる 3)コミュニケーションの構成要素				講義・体験学習
	7	2. 対人関係プロセスとしての看護 1)看護師と患者の関係 2)対人関係の成立に不可欠な要件 自分を理解する、自己一致、他者を理解する				講義 ロールプレイ
	8	3. コミュニケーションのプロセスに影響する因子 日本人の文化、医療文化、人間関係と空間				講義

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回		授業方法
授業計画	9	4. 看護におけるコミュニケーション技術とコミュニケーション能力の向上	講義
	10	1) 医療におけるコミュニケーション技術とコミュニケーション能力の向上	講義・ペアワーク
	11	2) 傾聴・共感の技術	講義
	12	3) コミュニケーション障害への対応	講義
	13	4) 面接技法とロールプレイング	演習
	14	5) プロセスレコード	講義
	15	5. 看護実践に向けたカンファレンス	
		1) 討議法	
		2) カンファレンス	講義・演習
		3) 目的・機能、効果的な運営方法、種類と手順、評価	
		4) カンファレンスの実際と評価	
	15	試験	
使用教材		単元:看護技術序論 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 単元:コミュニケーション 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2. 竹尾恵子 看護技術のプラクティス 第3版 学研 3. 長谷川雅美 自己理解・他社理解を深めるプロセスレコード 第2版 日総研	
参考文献		1. V. ヘンダーソン著 湯楨まき訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2. 川島みどり 新装版 看護の観察と判断 看護の科学社	
成績評価の方法		筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%	

科目名		生活援助技術 I (環境、活動・休息)			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	環境調整・活動の援助に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学習目標	内容Ⅰ(単元 環境) 1. 環境と健康の関連を理解し、健康な生活を維持するための環境条件を理解する。 2. 療養生活の場を、安全・安楽に整えるための知識と技術を習得する。 内容Ⅱ(単元 活動・休息) 1. 対象と看護者の安全・安楽を守る有効な身体の使い方を学ぶ。 2. 活動・休息が人間に与える影響を知り、活動・休息のニーズを充足するための基本的援助方法を理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	単元:環境 担当:専任教員 ※講義のガイダンス Ⅰ. 療養生活環境を整える技術の基礎知識 1. 療養生活の環境 (1)人と環境 (2)療養生活と環境 (3)生活環境の調整) 2. 病室の環境のアセスメント調整 (1)病室・病床の選択 (2)温度・湿度 (3)光と音 (4)空気の清浄性について (5)人的環境			講義
	2	Ⅱ. 援助の実際 1. 病室を整えることとは (1)ベッド・マットレス・枕の条件 (2)ベッドメイキング (3)ベッド・ベッドサイドテーブルの使用 (4)リネン類のたたみ方 (5)シーツのコーナーの作り方			講義 事前課題有 実技
	3	❖ベッドメイキング演習のオリエンテーション			デモンストレーション
	4	Ⅱ. 援助の実際 2. ベッド周囲の環境整備			講義
	5	3. 臥床でのリネン交換			グループワーク 実技、レポート
	6	❖ベッドメイキング演習			
	7	4. 安全・安楽な視点で病床生活環境について考える (1)ベッド周囲環境のアセスメント (2)病床整備の演習			講義 グループワーク 演習、レポート
	8	単元:活動・休息 担当:専任教員 ※講義のガイダンス Ⅰ. 基本的活動の基礎知識 1. 日常生活動作 2. 良い姿勢とは 3. ボディメカニクス			講義
	9	Ⅱ. 体位 1. 基本体位 2. 特殊体位			講義
	10	Ⅲ. 活動と休息 1. 対象の状況に応じた援助方法 2. 姿勢・体位の援助に関する安全			
	11	3. 体位変換の必要性和方法 4. 褥瘡予防 体圧分散マットレスと体圧測定、除圧方法、ポジショニング 5. 援助の実際			講義 体験学習

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
	12	1)水平移動 2)体位変換 3)移送車(ストレッチャー)への移動・移送 IV. 睡眠の基礎知識 V. 睡眠障害と援助 1. 睡眠障害の種類と要因 2. 睡眠への援助	講義
	13	VI. 演習オリエンテーション 体位変換・水平移動・車椅子への移乗・移送	デモンストレーション
	14	7. 車椅子移乗演習	演習
	15	試験	
使用教材	単元:環境・活動共通 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 3. 看護技術プラクティス 学研 4. 看護のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院		
参考文献	1. V. ヘンダーソン著 湯植まき訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2. 看護覚え書 現代社 3. 看護技術がみえる 臨床看護技術① メディックメディア		
成績評価の方法	筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%		

科目名		生活援助技術Ⅱ(清潔)			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	清潔を保つ援助に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学習目標	1) 身体の清潔が身体・心理・社会面に及ぼす影響と意義について理解する。 2) 病床での衣生活について理解する。 3) 清潔行動に影響を与える因子について理解する。 4) 全身の皮膚の清潔を保持するための、様々な方法について理解する。 5) 清拭・寝衣交換の技術を修得する。 6) 清潔の援助実施時に起こり得る事故について考え、技術の根拠の重要性を理解する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法 ★事前学習
	1	Ⅰ. 清潔の援助 1. 清潔援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 清潔援助の効果 3) 患者の状況に応じた援助の決定と留意点			講義・視聴覚教材 事前学習①: 皮膚の構造と機能、爪の構造、体温調節について。
	2	Ⅱ. 病床での衣生活の援助 1. 援助の基礎知識 1) 衣類を用いることの意義 2) 熱生産と熱放散 3) 被服気候 4) 衣生活に関するニーズのアセスメント 2. 援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 病衣・寝衣の交換 (1) 臥床患者の病衣交換 (2) 持続点滴中の場合 (3) 四肢に障害がある場合			
	3(4時間)	寝衣交換演習 1. 全身に力が入らず、自力での体位変換が不可能な患者の寝衣交換 2. 右肘関節・右膝関節を曲げることができない患者の寝衣交換			事前学習②: 別紙演習
	4	Ⅲ. 清潔の援助の実際 1. 援助の種類、基礎知識 2. 清拭援助の実際 ① 清拭・寝衣交換の実技試験オリエンテーション ② 事例の着眼点・技術練習チェック表の記載方法			事前学習③: 別紙講義 デモンストレーション
	5	③ 事例の着眼点について協同学習、清拭・寝衣交換におけるKYT			講義・協同学習
	6	④ デモンストレーションと清拭・寝衣交換について協同学習			デモンストレーション、協同学習
	7	⑤ 清拭・寝衣交換について協同学習			
	8(1時間)	実技試験 清拭・寝衣交換			実技試験
	9	3. 他清潔援助の実際 1) 整容とは ① 洗髪・・・デモンストレーション、洗髪演習オリエンテーション			講義・視聴覚教材 事前学習④: 別紙
	10・11 12(1時間)	洗髪演習 洗髪統括 ② 入浴・シャワー浴 ③ 洗面 ④ 眼・耳・鼻の清潔			演習 講義
	13・14	⑤ 手浴・足浴、⑥ 爪切り、⑦ 口腔ケア			講義 デモンストレーション 体験学習
	15	筆記試験			
使用教材		系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護技術プラクティス 学研			

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

参考文献	
成績評価の方法	筆記試験80点、事前学習10点、演習・講義態度・提出物の遵守10点

科目名		生活援助技術Ⅲ(食事、排泄)			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	前期
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	食事と排泄の援助に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学習目標	内容Ⅰ(単元 排泄) 1. 人間にとっての排泄行動とその意義について、解剖学・病態生理学的な点を理解しながら、生理的欲求と日常生活における行動としての排泄メカニズムについて学ぶ。 2. 対象のニーズと安全・安楽をふまえた排泄援助技術を習得し、状況に応じて実施するための基本技術について学ぶ。 内容Ⅱ(単元 食事) 1. 人間にとっての食事の意味と、対象に応じた栄養摂取方法を理解する。 2. 対象に応じた食事の援助方法を理解し、適切な食事援助技術を習得する。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
		単元:排泄 担当:専任教員			
	1	Ⅰ. 自然排尿および自然排便の基礎知識			講義
	2	1. 排泄の意義			講義
	3	2. 排泄器官の機能とメカニズム			講義
	4	3. 排泄のアセスメント			講義
	5	Ⅱ. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1. トイレにおける排泄介助			講義
	6	2. 床上排泄援助			講義
	7	①便器・尿器介助 ②陰部清拭			講義
	8	【演習】臥床患者の便器を使った排泄の援助 ※デモンストレーション			演習
	9	Ⅲ. 導尿			講義
	10	1. 一時的導尿 2. 持続的導尿			講義
	11	Ⅳ. 自然排尿および排便の介助の実際			講義
	12	3. おむつによる排泄援助 ①陰部洗浄 ②紙おむつ装着・交換			講義
	13	※実技試験オリエンテーション・デモンストレーション			実技試験
14	【実技試験】 臥床患者のおむつ交換と陰部洗浄			実技試験	
15	Ⅳ. 排便を促す援助 1. 浣腸 2. 摘便			講義	
16	Ⅴ. ストーマケア			講義	
授業計画		単元:食事 担当:専任教員			
	10	1. 健康生活における食事の意義			講義
	11	2. 栄養と食事に関する看護の役割			講義
	12	3. 食事に関する生理学的メカニズム			講義
	13	4. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント			講義
	14	5. 医療施設で提供される食事			講義
	15	6. 食事への援助			講義
	16	7. 援助の実際・デモンストレーション			講義
17	8. 摂食・嚥下障害時の援助			講義	
18	【演習】 ベッドギャッジアップ30度の食事介助を実践			演習	
19	9. 非経口的栄養摂取の援助			講義	
20	1)経管栄養法 2)経静脈栄養法			講義	
21	試験			試験	
使用教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研 3. 川島みどり監修 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

参考文献	1. 小玉香津子・尾田葉子 フローレンスナイチンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版会 2. 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア
成績評価の方法	筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%

科目名		フィジカルアセスメント				
教育内容		専門分野 基礎看護学	履修年次	1年次	履修時期	後期
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的		フィジカルアセスメントに必要な知識・技術・態度を修得する。				
学習目標		1. 看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的、必要性を理解できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と技術を習得し、実施することができる。 3. フィジカルイグザミネーションによって得られた情報から、系統的にアセスメントできる基礎的能力を身につける。				
回	回	授業内容			授業方法	
授業計画	1	I フィジカルアセスメント総論 ・フィジカルアセスメントの意義 1.ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2.健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・健康歴聴取の目的と実際、面接			講義 講義・演習	
	2	3.フィジカルイグザミネーションの基本技術 ・視診・触診・聴診・打診・対象の概観の理解			DVD視聴	
	3	II 一般状態と生命徴候 ・バイタルサイン:体温・呼吸・脈拍・心拍の測定方法と観察			講義・演習 DVD視聴	
	4	・バイタルサイン: 血圧の測定方法と観察 ・意識状態の観察 * 血圧測定の実際(デモンストレーションと課題)			講義・演習・体験 DVD視聴 体験	
	5	III 身体各部の計測 1.計測の目的と留意事項			講義・体験	
	6	2.計測の実際 ・身長、体重、皮下脂肪厚、腹囲				
	7	IV 実技試験の説明・課題提示 ・実技オリエンテーション、デモンストレーション			講義・演習	
	8	V 生命を維持するためのフィジカルアセスメントの実際 1.呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義・DVD視聴	
	9	2.循環器系のフィジカルアセスメント			講義	
	10	3.乳房・腋窩・リンパ・腹部のフィジカルアセスメント			講義	
	11	4.感覚器、神経系のフィジカルアセスメント			講義	
	12	5.筋・骨格器系のフィジカルアセスメント			講義	
	13	VII フィジカルアセスメント演習			講義・演習	
	14 (45分)	VIII バイタルサイン測定 実技試験(1時間)			実技試験	
	15 (45分)	IX フィジカルアセスメント 演習の振り返り・まとめ(1時間)			講義・グループまとめ 意見交換	
	16	試験			筆記試験	
使用教材		1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院 2. 村上美好監修 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス インターメディカ 3. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研				
成績評価の方法		筆記試験80%、授業態度(グループワーク等参加姿勢・課題学習の取り組み)20%				

科目名		診療の補助技術Ⅰ（創傷・感染、診察・安楽）			
教育内容		専門分野 基礎看護学	履修年次	2年次	履修時期 前期
単位（時間数）		1単位（30時間）	講義時間	28時間	試験時間 2時間
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		創傷管理・感染防止、診察・検査に必要な知識・技術・態度を修得する。			
学習目標		内容Ⅰ（単元 創傷・感染） 1. 感染および院内感染発生の要因を理解し、その防御のための基礎知識を習得する。 2. 創傷治癒過程と影響要因を理解し、治癒を促進するための援助方法を習得する。 内容Ⅱ（単元 診察・安楽） 1. 患者が安全・安楽に診察・検査を受けられるように援助する技術を習得する。 2. 安楽を促すための看護として、環境・体位・褥法に関する生体への影響を理解しその方法を習得する。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
		単元：創傷・感染 担当：専任教員 ※講義のガイダンス ＜創傷管理＞ 1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷処置 1)創洗浄と創保護 2)テープによる皮膚障害 3. 包帯法 体験学習（環行帯➡らせん帯、麦穂帯） 4. 褥瘡発生の基礎知識 5. ドレーン管理 1)ドレーンの目的と種類 2)ドレーンの管理、観察のポイント、ドレーン固定の実際 ＜感染防止＞ 1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. カテーテル関連血流感染対策 4. 針刺し防止策 5. 無菌操作 6. 体験学習 ①鑷子で綿球を操作する ②清潔野を作る ③滅菌グローブの着用			講義

科目名		診療の補助技術Ⅱ(与薬)			
教育内容	専門分野 基礎看護学	履修年次	2年次	履修時期	4月～9月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	看護師実務経験あり		
科目目的	与薬に必要な知識・技術・態度を修得する。				
学習目標	1. 薬物・輸液療法の意義・目的を理解し、薬物・輸液療法を受ける患者に必要な援助の方法を理解する。 2. 安全に与薬を行うシステムがわかる。				
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	※講義のガイダンス Ⅰ. 与薬の基礎知識～薬と与薬 Ⅱ. 薬物療法の意義～薬物療法とは、意義・目的 Ⅲ. 薬物療法の基礎知識 1. 薬物に関連した法令 2. 医薬品の取扱い 3. 日本薬局方による品質管理			講義
	2	4. 薬物の吸収・排泄のメカニズム 薬物の投与経路と血中濃度の推移、投与経路と体循環、食物と吸収作用の関係、剤形、用法 5. 薬物療法のアセスメント 薬剤効果に影響を与える因子 ハイリスク薬品			講義
	3	Ⅳ. 薬物療法における看護師の役割 1. 看護師の法的役割 2. 薬物療法における看護師と他職種の関連 3. 看護師の役割			講義
	4	Ⅴ. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1. 共通する与薬の方法 指示の確認、配薬方法、起こりやすい事故			講義 グループワーク
	5	2. 各種の与薬法 1)経口、その他(口腔内、直腸内)			講義 DVD視聴 体験
	6	1)その他の与薬法(点眼・点入、点鼻、吸入、貼付 塗布・塗擦法について) 2)注射法の基本(注射法の適用、容器の種類、注射器・注射針の種類)			講義 DVD視聴
	7	3)注射法の基本 バイアル・アンプル・注射器・注射針・輸液セットなどの取り扱い、清潔操作、点滴滴下数の計算について			講義 DVD視聴 実技
	8	3)皮内・皮下・筋肉内注射			講義 DVD視聴 体験
	9	3)皮下注射・筋肉内注射 ★演習についてのオリエンテーションと演習に向けての課題提示			実技
	10	4)静脈内注射 5)点滴静脈内注射			講義 DVD視聴 体験
	11	5)点滴静脈内注射の実技			実技

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

	回	授業内容	授業方法
授業計画	12	VI. 輸液療法 1. 輸液療法の意義・目的 2. 輸液療法を受けている患者の看護 3. 中心静脈カテーテル刺入介助 4. 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い VII. 輸血療法 1. 輸血療法の目的・適応 2. 輸血用血液製剤 3. 輸血の実際 4. 輸血の副作用の原因と対策	講義 DVD視聴
	13	演習(皮下・筋肉内・点滴静脈内注射)	演習
	14	VIII. 薬物療法における安全対策 1. 危険予知トレーニング	講義 グループワーク
	15	試験	
使用教材		1. 藤崎郁 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研 3. 川島みどり監修 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院 4. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第1巻 総論・薬の知識 37分 5. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第2巻 薬の管理とハイリスク薬の知識 24分 6. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第3巻 与薬技術とヒヤリハット① 28分 7. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第4巻 与薬技術とヒヤリハット② 51分 8. 【看護実践能力向上シリーズ】与薬 第5巻 与薬技術とヒヤリハット③ 30分	
参考文献		1. 看護技術がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 2. 決定版 ビジュアル臨床看護技術 照林社 3. 看護技術講座・演習ノート 診療に伴う看護技術 下巻 医学芸術社 4. 石塚睦子他 注射の基本が良くわかる本 照林社 5. ナースのための危険予知トレーニングテキスト メディカ出版	
成績評価の方法		紙上試験は、80点とする。 提出物や課題への取り組みを20点とする。合計100点満点とし、6割以上をもって単位認定とする。	

科目名		診療の補助技術Ⅲ(侵襲を伴う看護技術)			
教育内容		専門分野 基礎看護学	履修年次	2年次	履修時期 10月～3月
単位(時間数)		1単位(30時間)	講義時間	29時間	試験時間 1時間
担当教員		専任教員	実務経験	看護師実務経験あり	
科目目的		高い安全性が要求される技術を実践するために必要な知識・技術・態度を修得する。			
学習目標		1. 対象の状態に応じた看護技術を安全・安楽に実施できる。 2. 対象の症状緩和に向けた看護技術を安全・安楽に実施できる。			
授業計画	回	授業内容			授業方法
	1	※講義のガイダンス Ⅰ. 呼吸・循環の援助技術 ①酸素吸入			講義 体験学習
	2	②吸引 ③気管内加湿法			講義 体験学習
	3	④排痰ケア 5回目の演習に関するオリエンテーション			講義 体験学習
	4	5回目の演習に向けた学習および練習(グループ学習) (疾患と呼吸の援助技術の練習)			グループワーク
	5	演習 ★SCENARIOを活用したシミュレーション演習			演習
	6	2回程度に分ける。実施グループは当日決める。 シナリオ31 呼吸困難患者への対応 状態をアセスメントし、援助を実施する。 シミュレーション実施後はデブリーフィングと技術の評価を行う。			シミュレーション
	7	Ⅱ. 高い安全性が要求される援助技術 ①胃管カテーテルの挿入・栄養等の注入・管理			講義
	8	②一時的導尿法 ③グリセリン浣腸			講義
	9	④ドレーンの管理(廃液破棄、圧操作、体位変換など)			講義
	10 11	①～④の技術をグループ毎全員で体験する			体験(複数教員)
	12	持続導尿法			講義
	13	14回目の演習に向けた学習および練習(グループ学習)			体験
	14	演習 ★持続導尿法(グループ学習、2名程度が実施する。)			演習
	15 1時間	高い安全性が要求される援助技術について、まとめ			
	16 1時間	試験			
使用教材		1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 2. 竹尾恵子監修 医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版 学研 3. 川島みどり監修 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院			
参考文献		完全版 ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社			
成績評価の方法		提出物70点、筆記試験30点、計100点。合計60点以上で及第とする。 演習を受けるにあたり、課題の提出は必須である。			